

率2%以下で有意差が認められた。

2) 17KS 子宮筋腫で子宮全剝と付属器切除を行なった12例については術前尿中17KS 平均値6.21mg/day, 術後3.68mg/day となり術後すなわち退院直前に情緒の安定がうかがわれる。

3) 17OHCS 術前尿中平均値7.92mg/day, 術後7.84mg/day で特に著明な変化は認められなかった。

4) アドレナリン+ノルアドレナリン. 術前平均値41.4γ/day 術後平均値41.9γ/day で変化はみられないが12例中術後低下したものは8例あった。

以上より尿中ボルフィリン, 17KS, 17OHCS カテコールアミンともに情動不安との関連を認める。

150. 婦人科に於ける貧血患者の分析

(札幌医大) ○丸山 淳士, 高野 純一

婦人科領域において、貧血の発見されるものが意外に多く特に筋腫患者に高頻度にみられることが知られている。

われわれは昭和44年1月から昭和45年6月まで札幌医大婦人科に入院した患者813例を、筋腫群、非筋腫良性群、悪性腫瘍群に分け、それぞれの貧血の頻度を調べた。813例中Hb 11.0g/dl以下の貧血患者は333例(41%)、筋腫群341例中174例(51%)、非筋腫群297例中90例(30.3%)、悪性腫瘍群175例中69例(39.4%)である。貧血患者のうち、Hb 9.0g/dl以下の重症貧血は筋腫群22.5%、非筋腫群3%悪性群10.8%である。病歴で異常出血を訴えたものは、筋腫群の58.4%、非筋腫群20.2%、悪性腫瘍群では、子宮頸癌が大部分を占め、ほとんど全例に異常出血を認めた。筋腫群で異常出血を認めたものを、Menorrhagie, Metrorrhagieに分けると、それぞれ66.3%、33.7%である。筋腫群341例中貧血患者174例を筋腫の発育方向により分類してみると、粘膜下筋腫34例(10%)、筋層内筋腫129例(37.8%)、漿膜下筋腫11例(3.2%)であり、うち9.0g/dl以下の重症貧血は粘膜下筋腫58.8%、筋層内筋腫43.4%、漿膜下筋腫9.1%と粘膜下筋腫に重症貧血が多い。悪性腫瘍群中子宮頸癌を期別分類によりみると、0期16.6%、I期19.5%、II期32.8%、III期50.0%、IV期79%と期が進むにつれ貧血の頻度は多くなる。色素指数による分類では、筋腫群の81.6%、非筋腫群58.6%、悪性腫瘍群66.1%が低色素性貧血である。すなわち筋腫群貧血患者のほとんど多数が鉄欠乏性貧血である。

151. 子宮血腫を伴う腔欠症の患者に対する直腸噴置による造腔術について

(東京医大)

藤原 幸郎, 小坂 順治, ○土屋新一郎
宮崎 好一, 浜野 壹

(1) 研究目的: 月経モリミナを主訴として来院した先天性腔欠損症の患者に中山氏法変法による直腸噴置法を用いて、造腔術を施行し、子宮と直腸を吻合し新腔とし、術後数カ月して月経の発来をみた。前にも報告して来たが、われわれの行なう中山氏変法が他の方法に比べ副作用も少なく、試みる価値のある方法と考え、今回は術後月経の発来をみ、正常婦人と変らない順調な経過をたどっている2例について報告する。

(2) 研究方法: 本法を用いて月経の発来をみた2例の患者について、新腔の組織学的検査、スミア検査、BBT, 術後注腸により肛門部狭窄の有無の検査、染色体、IP, ホルモン定量、その他臨床的観察を行なった。

(3) 研究成績: 症例(1)は14才で、子宮は手拳大の血腫を形成し、両側の卵管も超鳩卵大の血腫を形成しており、腔の上部も存しており腔血腫を形成していたので、存せる腔と直腸を吻合し新腔とし、術後3カ月して月経の発来をみた。

症例(2)は14才で、子宮は鶏卵大、両側卵巢は正常であった。子宮に割を入れると少量の血腫を認め内膜の存在を推察できたので新しく子宮口を形成し、直腸と吻合し新腔とした。その後月経の発来をみた。両者とも術後の観察では正常婦人と変らない所見を得た。

152. 中層集団住居の婦人衛生に及ぼす影響調査(第12報)

(東京医大)

高橋 楨昌, ○斎藤成一, 高良 光雄
圃中 健吉, 臼田 実, 宮川 和英
中曾根敬一

前回(第11報)に引続き、団地の母子保健施設状況および各階別による妊娠中毒症並びに流早産の発生状況に関する再調査を行ない、次の結果を得た。調査対象は、都内、都下および近県の7団地のうち、今回は都内栗原団地610世帯および近県取手井野団地2,173世帯のうち直接調査成績の一部を報告する。取手井野団地は、入居開始後1年半足らずで、一部を除くと共働きの家庭が多く、また自治会幹部によれば、年間出産数も全世帯の70%程度といわれているが、直接調査では不在が多く、現在全貌は把握し難い。また、都内栗原団地においてもほぼ同様の傾向が窺える。ただ栗原団地では、自治会ないし婦人団体等団地内組織がほぼ完成されているので、